

## 加勢鳥の継承を図るデザイン

グラフィック分野 北本ゼミ A2201710 菊地桜子

### 研究の背景

私の出身地である山形県上山市には加勢鳥という旧暦小正月の祭事がある。商売繁盛や火伏せを祈願するための目的で毎年開催されている。全国的にも奇習と呼ばれている上山市の代表的な民俗行事である。2016年には地域の文化向上と活性化に貢献した個人・団体に贈呈される「サントリー地域文化賞」を受賞し、全国からの参加者も増えており活性化が図られている。しかし、地元の10~20代の若者からの認知度が低く、それに伴って参加者数が少ないことが問題とされている。現在、上山市民に向けて、ポスターとパンフレットが広報ツールとして使用されているが、制作側である加勢鳥保存会の方々からもわかりにくいという意見が挙がっている。また、現在の広報物には次世代に加勢鳥を発信していく内容はあまり含まれていない。よってこの問題を解決するために新たな広報ツールを提案する。上山市を代表する民族行事である加勢鳥を、今まで親しまれていた世代にはもちろん、我々若年層にも発信し、魅力を伝えることで末永く継承できると考える。

### 研究の目的

本研究では、ポスター・のぼり旗・フライヤー・パンフレットを提案する。ポスターは幅広い世代に受け入れられるデザインを1点。ポスターのデザインを展開し、のぼり旗を2点、フライヤーを1点制作する。フライヤーとのぼり旗は現在の加勢鳥の認知度向上につなげ、さらなる活性化を目指す。パンフレットは一般向けのパンフレットを1点、小学生向けの学習パンフレットを1点の計2点制作する。パンフレットは、現在の広報物にはない「次世代に加勢鳥を発信していくツール」となるよう制作する。

### 研究のプロセス

#### 【前期】

- 上山市観光物産協会事務局長への取材  
→現在の広報ツールについて

#### 【夏季休業中】

- 上山市市議会議長兼加勢鳥保存会監事への取材  
→資料だけではわからない加勢鳥の歴史について
- 加勢鳥保存会会長への取材  
→現在の広報ツールの問題点について

#### 【後期】

- 加勢鳥保存会への取材  
→ポスターの方向性を探るため会長、会員へ取材  
作品制作に必要な素材収集  
加勢鳥演舞へ同行・見学
- 各ツールの制作  
→ポスター制作(方向性調査の結果を踏まえ2案4種類制作し提案)  
のぼり旗、パンフレット、フライヤー制作



加勢鳥保存会会長への取材



出張演舞の見学(月岡ホテル)

## 成果(完成作品)

○ ポスター・・・[制作数] 1点 [サイズ] 728×515mm

過去に使用されていたポスターは加勢鳥の勢いやにぎわいが表れておらず、目に留まりにくいということが問題視されている。そこで、加勢鳥の特徴的な動きを写真やシルエットで表現し、一目見て興味を持ってもらえるよう制作した。配色は、雪の白、加勢鳥のワラをオレンジ、加勢鳥にかける水を青、そしてこれから末永く続く行事であってほしいという未来への希望を黄色で表した。町全体を列になって練り歩く加勢鳥をイメージしており、この行事から人と人との出会いや繋がりが広がっていくようなデザインになるよう制作した。



○ のぼり旗・・・[制作数] 2点 [サイズ] 1800×600mm

町中でポスター以外に告知するものが無いという問題点を解決するため車や自転車に乗っている人でも目に付きやすいのぼり旗を制作した。デザインの統一を図るため、ポスターのデザインをベースにしている。2種類とも踊りながら道を練り歩く加勢鳥たちのにぎやかさが出るようなデザインを目指した。オレンジは行事のにぎわいを表しており、青は雪景色の中行われている加勢鳥の様子を表した。



○ フライヤー・・・[制作数] 1点 [サイズ] 297×210mm

現在の広報ツールは、限られた場所でしか手に入れることができない。そこでフライヤーを制作し、駅や観光案内所に置くのはもちろん、上山市各家庭に月に2回届く市報に挟むことによって幅広い人々に告知することができる。カラーのフライヤーを市報に挟むことで他の記事や行事との差別化を図り参加者増加に繋げる。

○ パンフレット・・・[制作数] 2点 ◆ 一般向け(折パンフレット)[仕上がりサイズ]148×105

◆ 小学生向け(綴じパンフレット) [仕上がりサイズ]148×105mm [展開サイズ]297×420mm

一般向けのパンフレットを1点、小学生向けの学習パンフレット1点の計2点制作する。一般向けは現在のパンフレットの問題点を解消し、様々な世代に手に取ってもらえるようなデザインで制作する。小学生向けは、年に1度行われている小学校への出張演舞の際に配り、学習することができるものを制作する。小学生に継続的に配るということで継承にも繋がると考える。

## 考察

加勢鳥を次世代に繋げるため、歴史や由来、携わっている方々の思いを深く理解することに努め、各種ツールの制作に取り組んだ。研究に協力していただいた加勢鳥保存会は伝統ある団体であるため、会員一人一人に強い思いがあり、どのようなデザインを望んでいるのかを組み取るのに苦戦した。自分の伝えたいことが伝わらなかったり、関わり方が分からなかったりとデザイン以外で悩むことが多かった。しかし根気強く制作に向き合い、自分の思いを伝えることで少しずつ分かってもらった。今回の研究ではデザインはもちろん、外部の人との関わり方も学ぶことができ、これから社会に出るにあたってとてもいい経験になった。